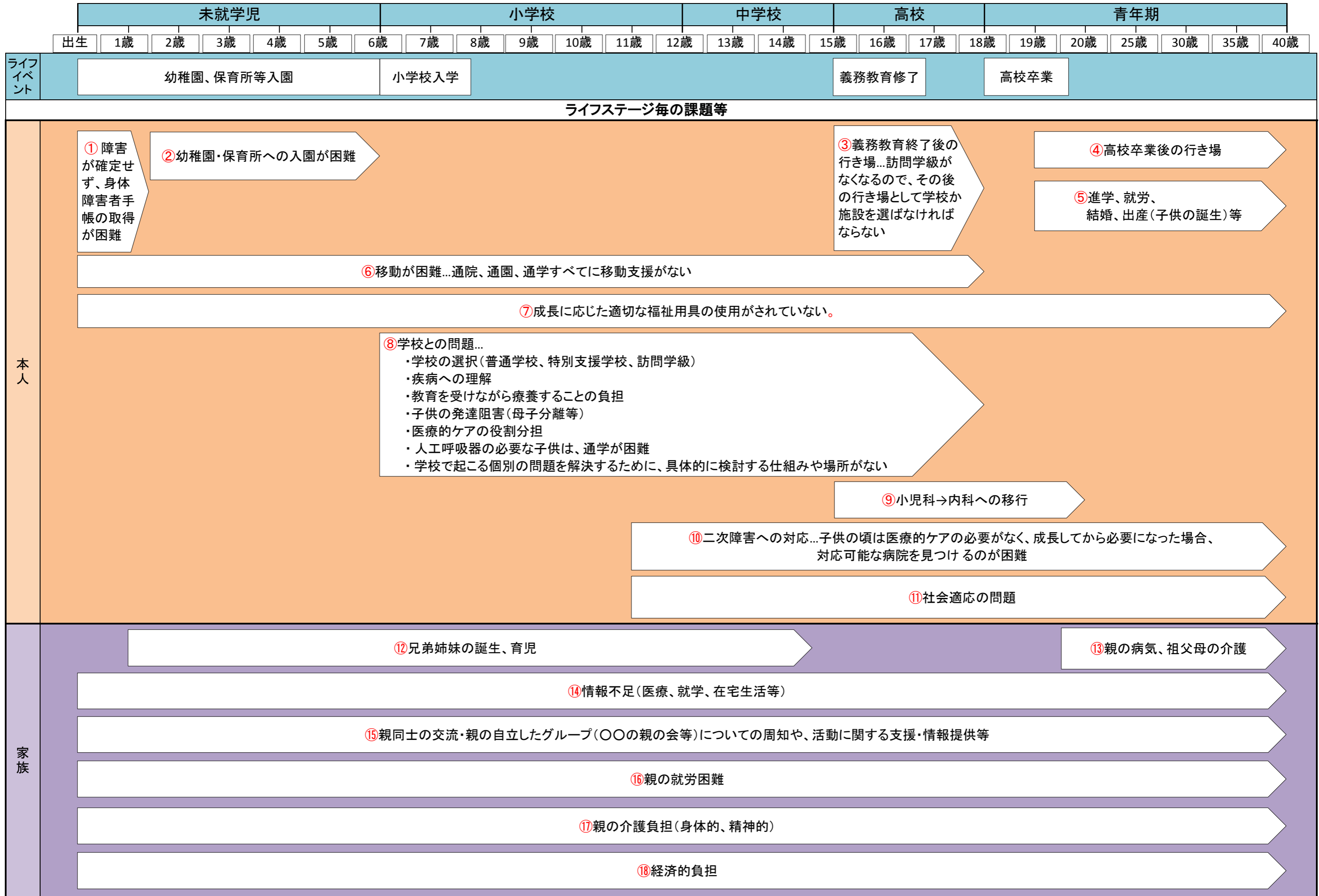


# 小児等在宅医療 ライフステージ毎の課題等



# 小児等在宅医療 ライフステージ毎の課題等

ライフイベント	未就学児					小学校						中学校			高校			青年期							
	出生	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	25歳	30歳	35歳	40歳
	幼稚園、保育所等入園					小学校入学						義務教育修了			高校卒業										
	ライフステージごとの課題等																								
その他	⑲ 訪問診療医師、訪問看護師の不足、在宅で医療的ケアを必要とする小児等に対する医療技術が未確立 標準化が困難																								
	⑳ 相談支援専門員に対してのサポート体制が不足している。(医療的ケアを必要とする小児等を支援できる人材の確保・育成、報酬等)																								
	㉑ 在宅生活をコーディネートする相談対応の仕組みができていない...困った時に誰に相談すれば良いかわからない																								
	㉒ ライフステージ全般を通じて、医療と生活を合わせて見守る仕組みができていない。																								
	㉓ レスパイト施設の不足																								
	㉔ 療育施設、通園・通所施設等の不足																								
	㉕ 親子が互いに自立した生活を送るための支援体制の不足																								
	㉖ 緊急時、災害発生時の支援体制の不足																								
	㉗ 地域の関係者が顔を合わせる仕組み(カンファレンス、自立支援協議会等)が有効に機能していない。																								
	㉘ 対象となる支援制度があっても、医療的ケアが重い等の理由で、実際は利用できないことが多い。																								
㉙ 医療的ケアが必要な子供でも、対象疾患でない場合、制度が利用できない。																									
⑳ 小児等在宅医療の定義が難しい																									
㉑ 都における医療的ケアを必要とする小児等の実態の把握が不十分																									
㉒ 行政間、行政内において連携体制が不足している																									
<p>㉓ ※主に退院→地域への移行時の問題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病院から地域への移行(病院と地域の連携が難しい)、病院(医療)と地域(生活)は文化(言語・ルール)が異なるが、それを越えて両者をつなぐ仕組みがない</li> <li>・在宅生活に対する親の不安、心の不安定</li> <li>・在宅で、自身が医療的ケアを行うことに対する親の不安</li> <li>・患者の病状が不安定(安定するまで3カ月～半年くらいかかる)</li> <li>・在宅で医療的ケアを必要とする小児等に対する技術が未確立 標準化が困難</li> <li>・社会資源が利用しにくい(退院直後のサービスの調整に時間がかかる等、一番大変な時期に支援を受けにくい。)</li> </ul>																									